

「プレスネット」(vol.883)  
平成 29 年 11 月 16 日掲載



広大マスターズは「国際学術研究都市」を目指す東広島市ならではの組織だと思っ  
ている。他に類例を聞かない。  
マスターズは、広島大学にか  
つて勤めた、東広島市に住



金田 晋  
(美学者)

## 広大マスターズとは何？

### 市民が自らの教養を高めるための一助に

東広島市は生涯学習日本一を提唱してきた。世は高度文明社会、技術革新や情報のグローバル化で、ともすれば新しい変化に目を奪われがちだ。だがその時こそ、不易の基礎が必要でないだろうか。

よい。  
広島大学にも貢献している。マスターズ会員には退職後も大学で教育や研究に関わっている者が多いが、会としても、留学生教育や大学の教養教育に積極的に参画してきた。例えばヒロシマを

生向けに開講している。毎年受講希望の学生が多く、抽選で受講が許可される始末である。  
大学の勤務には定年があるが、学問にはない。大きな実験装置や膨大な文献や資料の山から解放されて、一人

む教職員OBで構成されている。現役時は、研究調査だけでなく、学生の教育や、国内外の学会などの仕事に忙しく、自分たちの住む地域のことなど二の次になっていた。退職して、わが居住の地にも目が向くようになった。

市やマスコミ主催の市民講座に、進んで講師で出掛ける。市民が自らの教養を高めるための一助になればよい。だがそれだけではない。市民がありつたけの知力を使って起業する。そこにマスターズ会員の知恵を生かせれば

世界にアピールする使命を持つ広島大学には、全学選択必修科目として「平和科目」がある。その科目として「オムニバス授業「平和と人間Aー環境と生物の未来へ」」と「平和と人間Bー人間と文化の未来へ」を初学年次

の自由な研究者として立つ。そのような喜びがある。

広大マスターズは、昨年10周年を迎え、開館直後の芸術文化ホール「くらら」で、記念シンポジウム「学園都市・東広島の近未来を語る」を開催した。近い将来「少子高齢化」もあつて、日本

の都市分布は大きく変貌する。東広島市が特性を持った都市として成長するように、マスターズは貢献していきたい。

広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。  
【問い合わせ】  
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp (渡部)